



こども政策の推進に係る有識者会議資料



2021年11月8日

社会福祉法人麦の子会

理事長/総合施設長 北川 聡子

A close-up photograph of a hand holding a small green plant sprout. The hand is positioned in the center-right of the frame, with the thumb and index finger gently gripping the stem of the plant. The plant has several bright green, oval-shaped leaves. The background is a soft, out-of-focus white surface, possibly a tablecloth or a wall, which creates a clean and bright atmosphere. The lighting is soft and even, highlighting the texture of the skin and the vibrant green of the plant.

すべての命が
大切に育まれるために

むぎのこの歴史

麦の子会は1983年から子どもと家庭の困り感に寄り添い、ともに向き合い歩んできた

麦の子会が向き合ってきた困り感	麦の子会での取り組み
1 障害のある子どもの支援の場がない —1983年	旧障害児通園施設/現児童発達支援センター
2 通園する場が出来ても、親の体調などで来ることができない	ドアツードア送迎
3 障害のある子のきょうだい児にかかる我慢など(ヤングケアラー)	認可外保育施設/現企業主導型保育所
4 子育ての悩みや自分の悩みを相談できない (アメリカからの学び)	グループカウンセリング・ピアカウンセリング・ペアレントトレーニング・パパの会
5 養育困難家庭は施設措置により親子の繋がりが絶たれてしまう	アウトリーチ型での旧お掃除隊/現居宅介護事業・ショートステイ・一時保護・日中一時支援・里親・ファミリーホーム・親子関係支援
6 学童期地域学校に通えない (北欧からの学び)	フリースクール・インクルーシブ教育・学校支援・放課後等デイサービス
7 待つことができない子どもの通院がとても大変	クリニック・リハビリテーション
8 成人の居場所が必要である	生活介護事業・就労移行支援事業
9 成人期にはいって地域で暮らせるか不安	グループホーム
10 措置された子に障害がある場合には専門的な関わりも必要である	里親・ファミリーホーム・法人の職員による支援
11 制度が整備されることに伴い利用制度についてアドバイスが必要	札幌市障害者相談支援・一般相談支援・特定相談支援・障害児相談
12 保育園・幼稚園にも困り感のある子どもが通っている	保育所等訪問支援・札幌市障害児等療育等支援事業
13 措置後の子どもたちはひとり社会にだされてしまう	進学支援・措置後の居場所支援・法人雇用
14 障害児を育てていることまた、離婚家庭は働くことが難しい	障害児のママたちへの就労支援・シングルペアレントの就労促進
15 虐待が起りやい一方で親自身も虐待を受けてきている	緊急電話・トラウマケア・日常的なフォロー
16 ゼロにちの虐待死が多く、妊娠中からのケアが必要	妊娠葛藤相談・にんしんSOS

他にも子どもの親に介護が必要になったときどうするかなど、まだまだ課題は山積みである 等

1. むぎのこが子どもと家族に行ってきた支援
2. 障害のある子ども・社会的養護の視点から見た課題
3. 今後に向けた考え方

児童発達支援センター

父母・きょうだい等への支援【家族支援】

子どもへの支援【発達支援】



コミュニティアプローチ【地域支援】



発達支援 適切に配慮された子育て

Developmental Support

-乳幼児期の発達支援-

すべての子どもに 必要な事

- ・乳幼児期は、養育者との愛着関係の形成が大切
- ・障害のある子どもも同じ。
 - 安心感信頼感の基盤—生の土台
- ・基本的な信頼感
 - 大人がいいことやってくれる人
 - 生理・感情一致
- ・医療との連携は必要であるが、子育ての支援

医療型児童発達支援センター



ST



PT



保育（お誕生会）

福祉型児童発達支援センター



朝の会「絵本(大きなかぶ)」



毎日のリズム運動



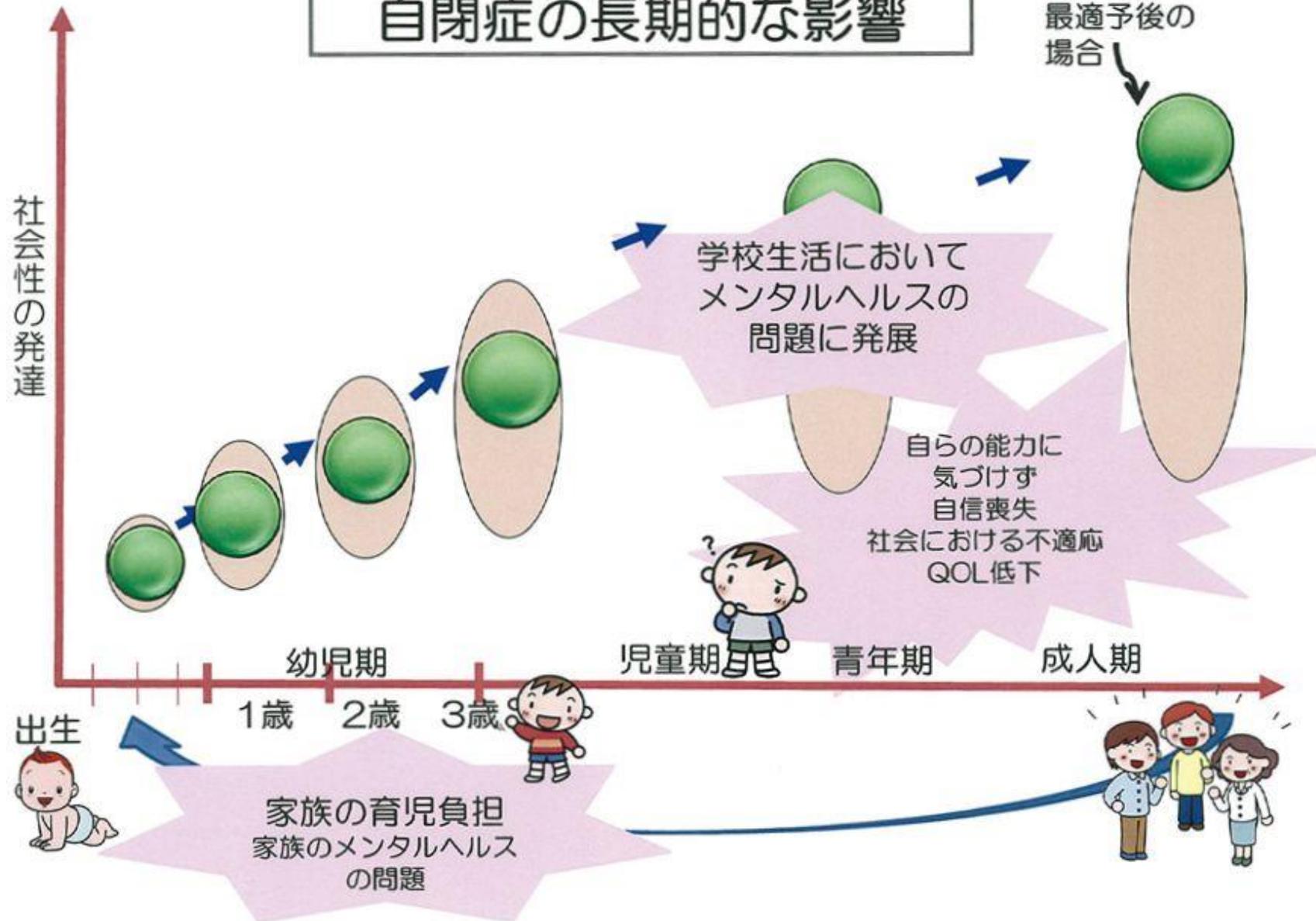
友達やお母さんとの楽しい日々の積み重ね



自閉症の長期的な影響



社会福祉法人麦の子
むぎのこ



2012年度 発達に気になる子の育ちを考える夏季セミナー 発達障害の医療に関する基礎知識 ～自閉症スペクトラムに関する最近の知見を中心に～、高橋秀俊、2012.8.4. より引用

思春期の主な困り感



朝起きれない・不登校

暴言・暴力

学力不振・過適応・自殺企図

外傷性ストレスに対する対応

教育支援部門「放課後等デイサービス」

【プレイ】
定員10名
1年生



【むぎのこ】
定員10名
1年～高2



【ライオン】
定員10名
1年生



【ライラック】
定員10名
3年生



【ジャンプレッツ】
定員10名
小5～中学生



【大通教室】
定員10名
小学生



【ピッピ】
定員10名
6年生



【ユスタバ】
定員10名
2年生



ブレーメン館
H27年12月7日



【ヨシア】定員20名 2年生

【シーランチ】定員10名 小1～小6

【野の花】定員10名 5年生

【ブラックベリー】定員10名 中高生

【グリーン】定員20名 4年生

【チェリーブLOSSAM】定員20名

【スカイブルー】定員20名 小1～6

【トゥモロー】定員10名 小1～6

朝から開所の
事業所

【プログラム】

時間	内容	療育のポイント
14:00	①集合、宿題	・学習
15:30	②ミーティング おやつ	・あいさつ ・活動説明 ・社会スキル練習
16:00	③設定課題 ・運動活動 ・制作活動 ・交流活動	・自己主張 ・行動調整 ・コミュニケーション ・指示理解
17:00	④帰りの会	

学校との連携



教育と福祉の連携

放課後等デイサービスの職員が
学校支援を行っている

授業中の様子



地域の小中学校と

- ★ 平成25年度インクルーシブ教育システム構築モデル事業の取り組みから

管理職連携

担任等ケース会議

I E P の連携・活用

お母さん、
家族を支える。



**なぜ
家族支援が
大切なのか**

子どもを救うためには、家族が救
われなければならない
(ネウボラ保健師の言葉)



子どもの障害とお母さん自身のケアニーズと
重なり、虐待のリスクが高まることもある—
心理・生活支援が必要

心理支援、 グループ カウンセリング

- ・ グループカウンセリング
(幼児期週一回)
- ・ 個別カウンセリング
- ・ お母さんピアカウンセリング
- ・ 自助グループ
- ・ トラウマケア

どんな気持ちも大切な気持ち
悲しいの時は、泣いていい。
嬉しい時は、喜んでいい。

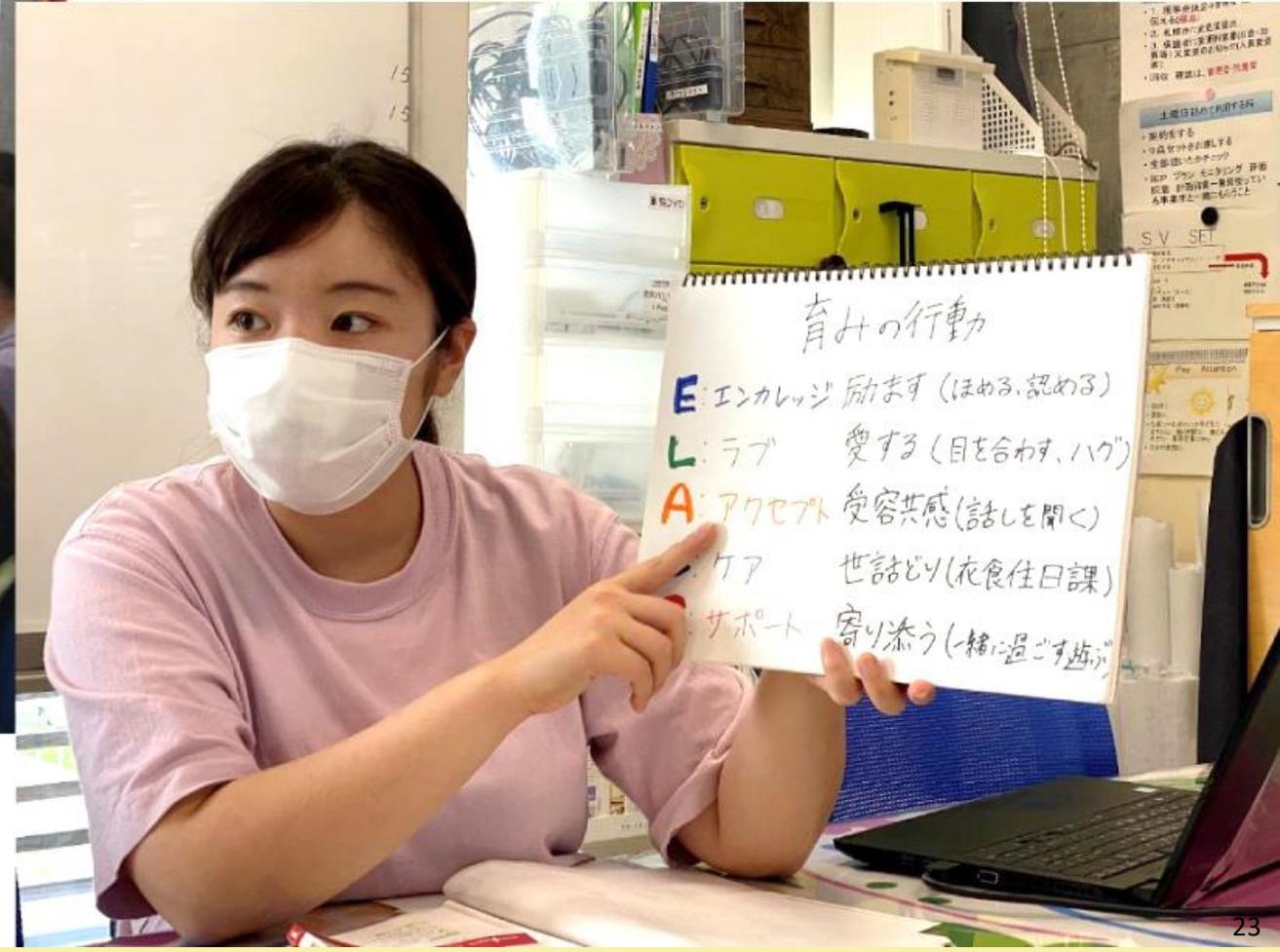


きょうだい支援とセラピー《家族》



ペアレントトレーニング

コンセンサス・ペアレンティング



パパミーティング(月2回土曜日)



24時間緊急携帯

育児の

大変さを支える



【生活支援】

ホームヘルパー

(アウトリーチ)



ショートステイ

スウェーデンのパパからの学び

「子育ての大変さを担うけど、

子ども自身そして、

きょうだいや私達のために、

それ以上の大変さは、

社会の力をかりる」



社会的養護の 必要な子の支援

地域に住んでいる
いろいろな困り感の
ある子どもと家族と共に

障害児×社会的養護の取り組み

<麦の子会にいる里子（全56名）>

乳幼児～高校生まで、ほとんどが発達に心配のある子ども

(2) 里親等委託率の推移

○里親制度は、家庭的な環境の下で子どもの愛着関係を形成し、養護を行うことができる制度
○里親等委託率は、平成22年3月末の11.1%から、令和2年3月末には**21.5%**に上昇

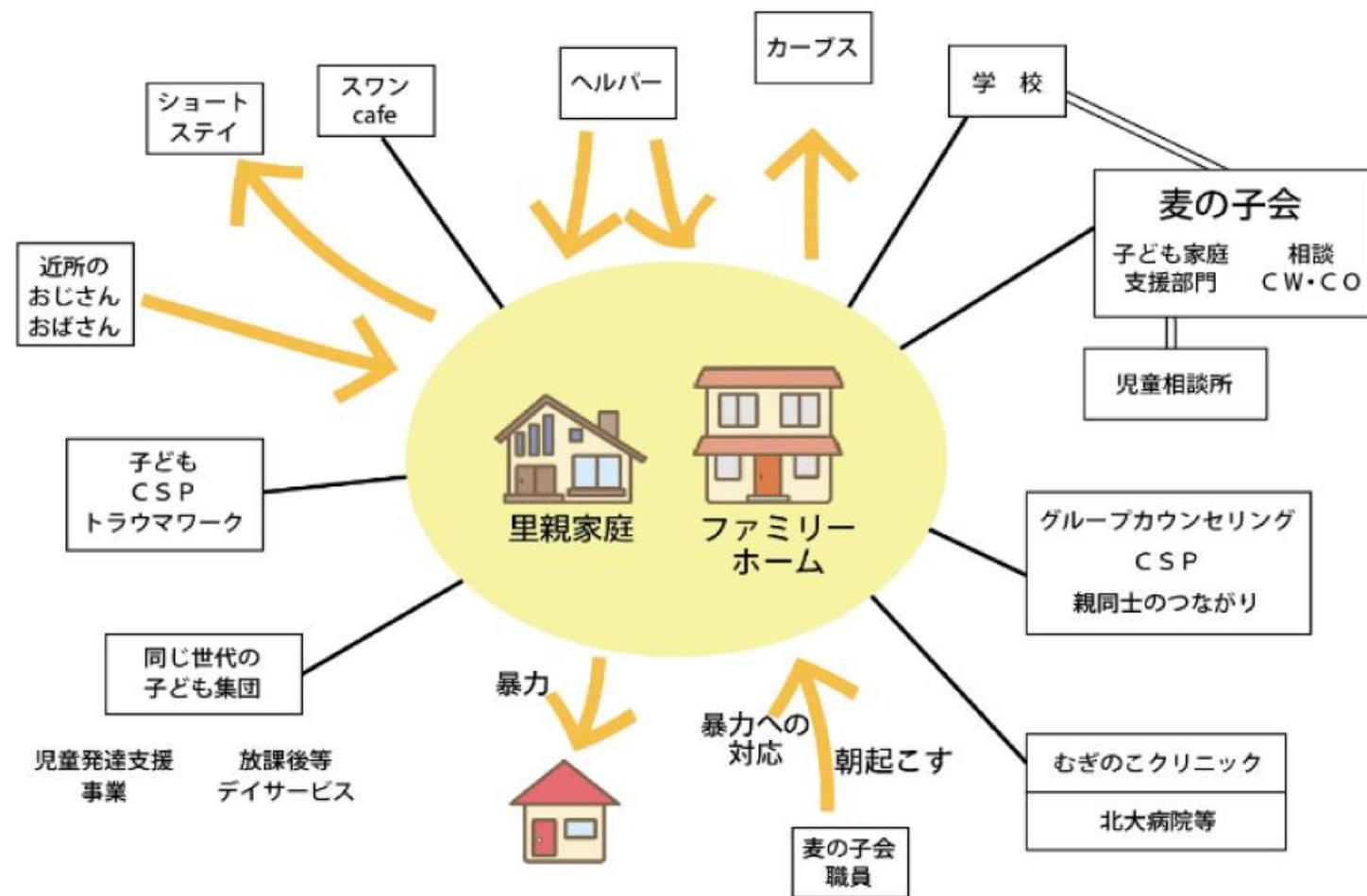
年度	児童養護施設		乳児院		里親等※		合計	
	入所児童数 (人)	割合 (%)	入所児童数 (人)	割合 (%)	委託児童数 (人)	割合 (%)	児童数 (人)	割合 (%)
平成21年度末	29,548	80.8	2,968	8.1	4,055	11.1	36,571	100
平成22年度末	29,114	79.9	2,963	8.1	4,373	12.0	36,450	100
平成23年度末	28,803	78.6	2,890	7.9	4,966	13.5	36,659	100
平成24年度末	28,233	77.2	2,924	8.0	5,407	14.8	36,564	100
平成25年度末	27,465	76.2	2,946	8.2	5,629	15.6	36,042	100
平成26年度末	27,041	75.5	2,876	8.0	5,903	16.5	35,820	100
平成27年度末	26,587	74.5	2,882	8.0	6,234	17.5	35,703	100
平成28年度末	26,449	73.9	2,801	7.8	6,546	18.3	35,796	100
平成29年度末	25,282	73.9	2,706	7.8	6,858	19.7	34,846	100
平成30年度末	24,908	71.8	2,678	7.7	7,104	20.5	34,690	100
令和元年度末	24,539	70.5	2,760	7.9	7,492	21.5	34,791	100

※「里親等」は、平成21年度から制度化されたファミリーホーム（養育者の家庭で5～6人の児童を養育）を含む。
ファミリーホームは、令和元年度末で417か所、委託児童1,660人。

（資料）福祉行政報告例（各年度末現在）※平成22年度の福島県の数値のみ家庭福祉課調べ

里親等委託率

里親さん ファミリーホーム への支援



障害のある子どもと里親さん



むぎのこの子どもと家族に対する支援

障害児通所支援

政策を個々で完結させるのではなく
一般子ども施策等との連続性が必要

< 麦の子の実践（一部抜粋） >

本人

幼児期

発達支援

- 子育て支援センター
困り感のある
子どもと家族が集う
- 愛着形成
- 楽しい日々の
積み重ね 等

学童期

思春期の支援

- 放課後等デイサービス
幼児期から大人への
継続支援の場となる
- 教育と福祉の連携
- 地域の小中学校との
連携 等

親・養育者

家族支援

- 親自身のケアニーズ
虐待リスクに対する
予防となる
- 心理支援
- グループ
カウンセリング 等

きょうだい児

きょうだい児支援

- 保育園
ヤングケアラーの
予防となる
- 心理支援
- セラピー 等

むぎのこが行ってきた取り組み



社会福祉法人麦の子

むぎのこ

子育て支援

子育て一般の問題
母子関係
健康

在宅支援の充実

家庭からのSOS

【子ども】

障害のある子ども(発達障害児や医療的ケア児等)
社会的養護必要な子ども

【家庭】

病気 障害 シングルペアレント
被虐待 虐待 DV 親子再統合等

社会的養護

地域での家庭養育
里親・ファミリーホーム



子ども支援・家庭支援・心理支援・S W・生活支援・里親支援

地域で保護者を支え、子どもを育むために

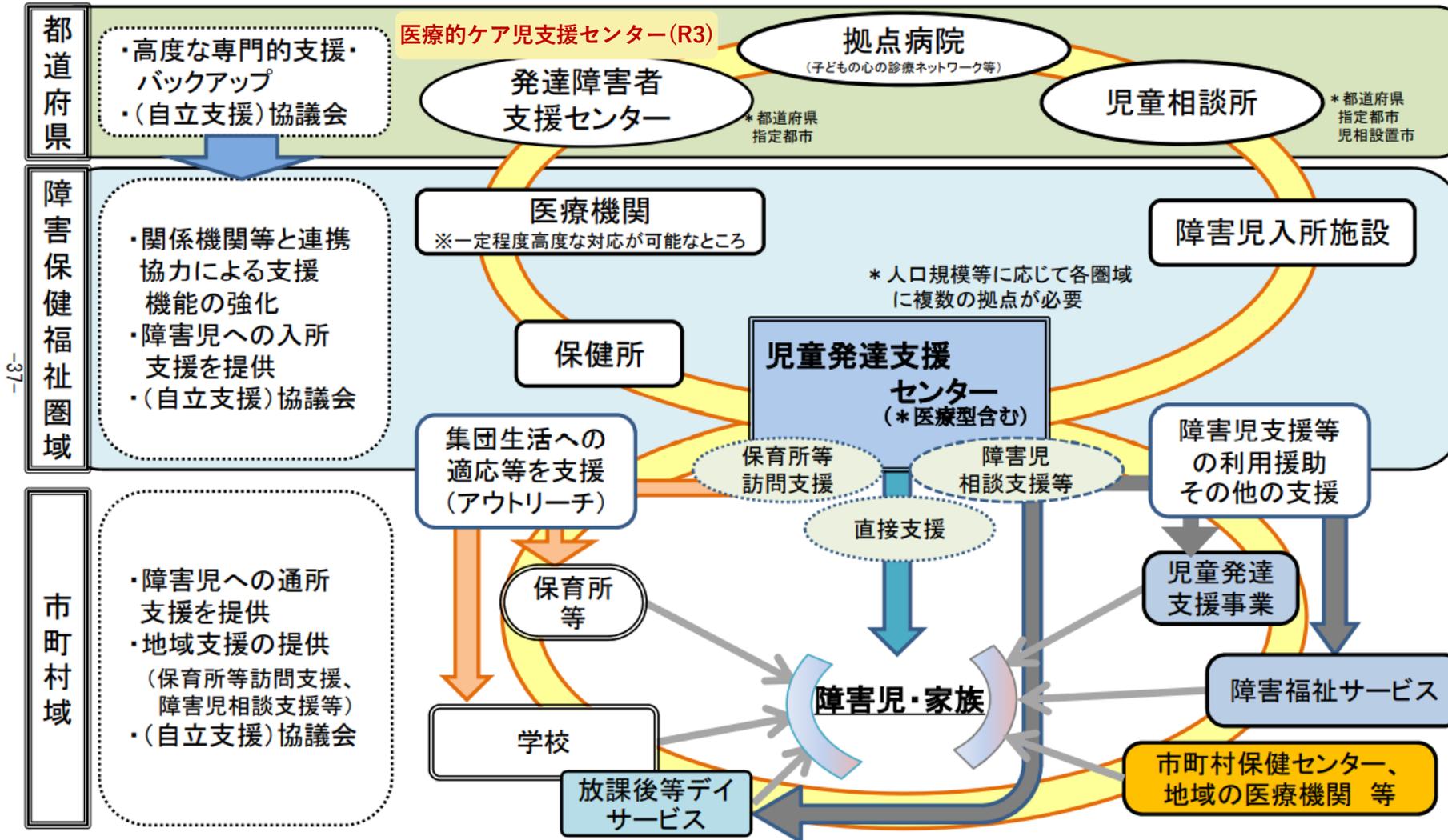
障害児の地域支援体制の整備の方向性のイメージ

参考資料3



社会福祉法人麦の子
むぎのこ

各地域の実情に応じて、関係機関の役割分担を明確にし、重層的な支援体制を構築する必要。

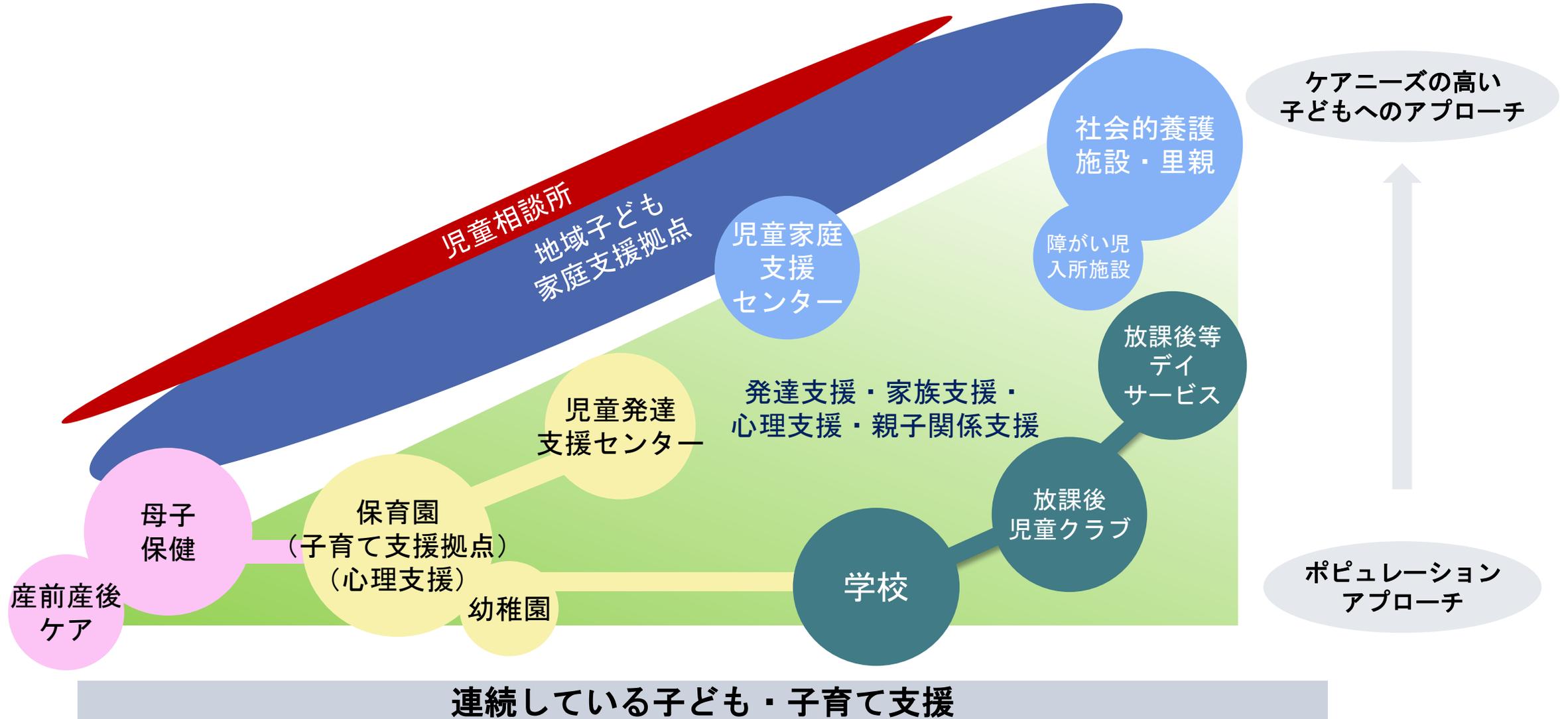


出所：平成26年障害児支援の在り方に関する検討会（厚生労働省）

社会が地域の全ての子どもと家族を温かくつつむ



社会福祉法人麦の子
むぎのこ



子どもが育つ家庭養育環境をよくするために



ジャッジではなく理解（気さくさ）

相談 → 支援

- ・保健センター
- ・子育て世代包括支援センター

- ・子育て支援センター
- ・保育園
- ・幼稚園
- ・児童発達支援センター

- ・学校
- ・学童クラブ
- ・放課後等

それぞれの自立

保健師

心理

ソーシャルワーク

生活支援

地域の子育て関係者の連携

子育てはみんなで



ひとりの子も取りこぼさないで、幸せになる国を創っていくために



社会福祉法人麦の子

むぎのこ

アクセスしやすい市町村の身近なところで相談と支援ができることが大切

むぎのこでは、制度がなくても必要なことであればボランティアからスタート

だが 必要な支援は、継続性と安定性が必要

地域の家庭への支援は給付費も含めて検討していく必要がある

子育て支援関係者の連携はもちろん、家庭養育環境支援の量と質、

そして支援メニューの充実が

少子化の課題もある日本を救う事につながる

生まれてきてよかったと思える日々、この世は生きるのに
あたいすると思える多様性が尊重される社会のために



ご清聴ありがとうございました

